

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470900984	事業の開始年月日	平成16年4月1日	
		指定年月日	平成22年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ港北新羽			
所在地	(221-0864)			
	神奈川県横浜市港北区新羽町2435-17			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月7日	評価結果 市町村受理日	平成23年10月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.mimoza-care.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームなので家庭的な環境作りに努め、入居者様の関係者が来られた際にも、暖かく迎え落ち着いて過ごして頂けるよう、職員一同心がけています。また、ホームの裏には緑があふれ、入居者様が四季を感じたり、いつでも草花に触れられる心温まる環境になっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年8月19日	評価機関 評価決定日	平成23年9月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇笑いのある、明るいグループホームを目指している。
 ・利用者には本人の立場に立って暖かく、安心して穏やかな暮らしができるよう支援している。
 ・職員には、誰にでも意見や要望が言え、利用者に絶えず笑顔で接するよう指導している。この結果、利用者と職員の会話が弾み、ホーム内には笑いが絶えず家族からも喜ばれている。
 ◇法人の方針に則り管理体制の充実と、職員の育成に力を入れている。
 ・管理者の下に管理者代理を配置し、管理者が不在の場合も運営に支障のない体制を敷いている。
 ・職員への研修は、年間計画に沿って実施しており、内部研修には、非常勤職員も参加してスキルアップに努めている。また、外部研修に参加した職員は研修結果をスタッフ会議で報告して、職員間で共有化している。

【事業所が工夫している点】

◇専門知識の習得を目指して、勉強会を実施している。
 ・認知症や、高齢者がかかりやすい疾病など、職場で自主的に月1～2回のペースで職員が学びたいテーマを決めて、勉強会を開催している

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ミモザ港北新羽
ユニット名	ばら、うめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日、目に入る場所に掲示し、職員が意識するようにしている。また、ケアは理念に沿って実施するよう職員に意識付けしている。	・理念は、平成19年に管理者が職員の意見を入れて作成した。 ・事務所と職員室に理念を掲示し、スタッフ会議で確認しており、現場で守られないときはその場で指導している。職員には入社時に理念についての研修を実施している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し敬老会に参加したり、地域の祭り等にも参加している。また、運営推進会議にて民生委員や町内会長とも、意見交換やホームの状況を伝えている。ホームの祭りの際、地域の住民をお誘いした。	・町内会に加入し、敬老の日のお祝いには毎年参加している。 ・地域の盆踊り大会や小中学校の運動会に利用者と共に参加している。 ・事業所主催のホーム祭りやグループホーム見学会への参加を呼びかけ、地域住民が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校にレクリエーションで作った作品を展示していただいたり、老人会のイベントに参加し、地域の人々と触れ合いを持つ機会を作りにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員、利用者の家族に参加してもらい、ホームの活動状況等を報告したり、助言を頂いている。地域への積極的な参加を促されできた。、近隣小学校との交流も続いている。	・運営推進会議は2か月ごとに開催し、家族・地域包括支援センターの職員が参加している。 ・参加者から、地域住民へのアプローチが不足ではとの助言があり、隣接の営業所や社宅住民に災害時などの協力を呼びかけている。	・町内会関係者の出席がないようですので。町内会に働きかけて関係者の参加を呼びかけ、さらなる地域との密着を図ることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	港北区役所が担当である、生活保護の方が入居している事もあり、日頃より連絡を取り合っている。現在も時折、入居希望者の紹介があり。また、市が実施する講習会等にも参加するように努め、関係を築けるようにしている。	・港北区の職員とは介護保険の更新や利用者の紹介などで、話し合う機会が多い。 ・保険の更新が遅れていたケースに、区の職員と連携して解決した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施したり、マニュアルを作成し、拘束の悪影響や知識のついて理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・事業所全体で身体拘束排除宣言を表明し、拘束しない方針を徹底している。家族から拘束を依頼されるケースでも方針を説明し実施しなかった。 ・玄関は日中は施錠せず、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。また、管理者は職員や家族と、ケアについて話し合い日常で、虐待がないか状況把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を用意している。また、現在後見人がついている方もおり、家族や後見人と連絡をとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居の際に、文面や口頭にて説明し、疑問点等についても納得して頂けるよう丁寧に説明している。解約に関しても、事前に家族と話し合いをして納得を頂いたうえでやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の連絡先については契約の際に説明し、家族にお渡ししている、重要事項説明書にも記載している。また、家族が面会時にいつでも見えるよう、ホーム内にも掲示している。運営推進会議にて頂いた意見等も参考に、検討している。	・利用者とは会話の機会を多くし、家族とは面会や電話の折、意見を引き出すように努めている。 ・運営推進会議や家族会でも意見や要望を聴取している。 ・家族の要望で、おやつを軟らかいプリンなどに変更した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を行い個々の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常で職員が気付いた事などは、連絡ノートに記入してもらい、反映している。	・毎月のスタッフ会議の前に、職員からテーマを出してもらい、意見や提案を検討する場としている。意見や提案の検討結果は連絡ノートに記載し、欠席者にも徹底している。 ・ベランダの段差が、危険との意見があり、補修を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員とのコミュニケーションをしっかりと、一人一人の状況把握に努めている。また、各自が向上心を持てるよう、資格取得等も促している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修等に関して、管理者や新入社員、契約社員等、個々に合わせた研修に参加できるように、促し機会を設けている。外部の研修に関しても、本人がやる気を出して参加するよう、働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者と希望者で、ブロック連絡会の研修に参加し、他の施設の方との交流の機会を持てるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談、契約時において本人の意見や、困っている事、不安に感じている事をよくききとり、その後のケアにいかして安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前後において、家族が困っている事や、希望する事に耳を傾けアドバイス等し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族や本人の訴えや希望を聞き、ケアプランにも練り込み、日々ケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者や所長は、職員が管理する立場ではなく、共に同じ生活をする者だという事を認識してもらえよう、勉強会にて説明したり、日頃の会話の中でも話している為、その関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の本人の健康状態や状況を細かく伝え、通院時等にも家族の力を借りたりして、ともに本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの家族や馴染みの友人が来た時等は、ゆっくりしていけるように環境作りに努めている。また、中には馴染みの床屋や、歯医者に通っている方もいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に家族から、本人のこれまでの友人関係などを聴取し、関係が継続できるよう支援している。 ・友人の来訪時には、お茶やおやつを出し会話が弾むようにしている。また、手紙書くときや、電話利用の場合は積極的に支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した人がでない様に、それぞれに合った食事の席を用意したり、孤立した人がいたら、話の輪に入れていける様に間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した本人、家族についてはこちらから連絡はあまりないが、連絡をした際や、連絡があった際には、現在の状況や、御様子をお伺いし、力に慣れるように相談に乗ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関係を密にし、会話から本人の希望や意向をくみ取れるよう、努めている。また、困難な方の場合でも本人の立場にたって考え、カンファレンス等で支援方法を検討している。	・職員が利用者の立場に立って、日常の会話から思いや意向の把握に努めている。 ・把握が困難な利用者には、表情や行動から思いを汲み取り、支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みについては、本人や家族からも情報を頂けるように、コミュニケーションを密にとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、ケース記録に記入し全職員が読むようにしている。また、日に二回申し送りを実施し、特変等を引き継いでいる。また、一人一人の現状についてはカンファレンスにて、話し合っって現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、本人の現状に合ったケアについて話し合い、職員それぞれの良い意見等を介護計画に反映させている。また、家族が来た際には、本人の現状を伝え、家族の希望や意見も参考になっている。	・介護計画には利用者・家族と話し合い主治医の意見も反映している。 ・計画期間は3か月毎としているが、状況が変化したときや家族からの要望により都度見直している。 ・利用者の変化は、日々ケース記録に記入し計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは、ケース記録に記入し、職員はそれを読んだり、申し送りにて情報を共有している。計画作成者は、記録から情報を抜き出し、カンファレンスでも話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物内のデイサービスで実施している音楽療法や書道教室に希望者が参加できるように支援、促している。また、デイサービスフロアにある運動の機械を使いたいという方がいるので時折使用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科、書道教室を利用し、安心して楽しく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を導入しており、入居時等に聞き希望者のみ往診に切り替えている。本人や、家族の意向により、馴染みの医療機関をそのまま利用している方もいる。その場合は、家族に健康面等を伝えている。	・本人や家族の意向を尊重し、現在2名がかかりつけ医を受診している。通院の付き添いは原則家族とし、診療の情報や薬については、家族から入手している。 ・協力医は月2回往診し、歯科医が月4回訪問治療している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師が来るので、一人一人の状態を細かく報告し、医療面等、わからない点に関しては助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、入院先の病院に連絡をこまめにとり、現状の把握に努めている。また、早期に退院できるように、家族やかかりつけ医ともこまめに連絡をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、入居時に文面、口頭にて十分に説明してある。また、終末期に近い段階になった際は早目に家族と話し合い、考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期への対応は、現在実施していないが、今後受け入れる方針で、医師・看護師との協力体制を構築中である。 ・職員研修を早期に実施すべく検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化や終末期の、医師・看護師との協力体制を確立し、職員研修を早期に実施されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、勉強会等で訓練している。また、報告書等を必ず全員に読んでもらう事により、職員全員が発生時の対応について頭に入っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回訓練を実施している。夜間を想定しての訓練について、消防署より指摘された点があるので、次回は改善し実施する。地域住民も訓練に参加してもらえるよう声はかけたが参加して頂けず。今後も依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回消防署の指導で、利用者も参加して避難訓練を実施している。 ・訓練では、AEDの使用方法や肺蘇生法の指導を受けた。 ・水・乾パンなど食料品の備蓄は3日分を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との防災協定を結び、夜間災害時を想定した避難訓練にも、近隣住民の協力が得られることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が周りに知られたくない事、排泄に関する事や病気に関する事等、周りには知られないように小声で声をかけたり、他者がいない所で声をかけるようにしている。	・人生の先輩として、利用者への声かけには敬意を払い、プライバシーの確保に気をつけている。 ・職員に不適切な言動があったときは、管理者がその場で注意し、確認し合う仕組みができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な面で、職員が決めるのではなく、本人に聞いたり選択肢を用意し本人に決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や入浴等は、できるかぎり本人のペースを尊重し、本人の希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問理美容に来てもらい髪型を本人の希望に合わせてカットしてもらっている。また、時折化粧等のおしゃれを支援して喜んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際、できる方には盛り付けをお願いしている。食事に関しては、日によって調理方法をかえたり、時折出前をとっている。	・利用者はできる範囲で盛り付けや食器の片付けを職員と一緒にしている。 ・利用者の希望メニューは行事食として取り入れ、職員と一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに関しては、業者の栄養士が作った献立表に従っている。水分に関しては水分量を個々に付け、少ない方にはこまめに促したりして確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて行える方は促し、介助が必要な方は、必要な部分だけ介助している。また、週に一度訪問歯科が来ており、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を個々に付け、排泄のパターン把握に努めている。また、排泄のパターンを把握し、定時誘導により失禁の回数をできるだけ減らし、オムツをなるべく使わないでもいいようにできないか、検討している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレに誘導しており、5人の利用者が自立している。 失敗したときは小声で、本人に負担を掛けないよう配慮している。 夜間のみポータブルトイレを利用し、安眠できている利用者がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をよくとってもらい、少しでも運動して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に概ね何回くらい入って頂きたい回数があり、促しはするが強制はせず、また本人が望むならそれ以上入っていただいている。入浴時は個々に合った支援方法で支援し、安心して入浴できるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 時間帯や回数を決めず、個々に応じた入浴で支援している。 入浴時のコミュニケーションを大切にし、菖蒲湯・柚子湯や入浴剤などで季節感を楽しめるよう工夫している。 同性介助で対応している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、温かい飲み物を提供し、不安な事、困っている事は傾聴し安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬のチェック表に、どの薬を飲んでいるか記載し、いつでも目に入るようにしている。服薬時は、飲み込むまで側から離れない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、食事の盛り付け等個々ができる事を把握し、無理のない程度に依頼している。生活歴や趣味から、その人にあったレクを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外気浴や外出を支援している。また、ご家族にも協力してもらい、外出する事もある。	・坂道が多く徒歩での散歩が困難なため、事業所の周りを歩いたり、2階のベランダで日光浴をしている。 ・季節の花見や初詣・お祭りなどには車を利用して出かけている。 ・本人の希望で家族と、外食や買い物に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には少しではあるが、お金を自己管理していただいている。買い物等に行く際は一緒に行き、お菓子等本人に選んでもらう等、買い物の楽しさを味わってもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡をとりたいと希望がある時、家族から連絡があった時は、本人が電話を使えるように支援したり、手紙や年賀状等を書かれた際は、こちらで出すように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節を感じていただけるよう、季節のお花を飾ったりしている。また、大きな音をたてないように気をつけ、照明も強過ぎないように調整している。また室温の調整も、動く職員ではなく、あまり動かない方に合わせて調整している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居間のテーブルや椅子は利用者の意見や間柄を考え、適宜配置換えを行っている。 ・裏庭や地続きの畑に咲く花を食卓に飾り、季節感を出している。 ・室温と湿度は、利用者に合わせて職員が調整している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外では席等の指定は特になく、ソファやテーブルの席を自由に使って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れない場所に泊るといふ、本人の不安もあるので、入居時には家で使い慣れた、見慣れたものを持ってきて頂けるように依頼している。	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れたテレビやタンス、趣味の小物などを持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるように、家族の意見を聞いて配置している。 ・事業所では、予めベッド・カーテン・エアコンを設置している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂場には手すりがついており、安心して歩行できるようになっている。また、各トイレ、お風呂場には呼び出しボタンがついており、利用者が必要な時に呼べるようになっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日、目に入る場所に掲示し、職員が意識するようにしている。また、ケアは理念に沿って実施するよう職員に意識付けしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し敬老会に参加したり、地域の祭り等にも参加している。また、運営推進会議にて民生委員や町内会長とも、意見交換やホームの状況を伝えている。ホームの祭りの際、地域の住民をお誘いした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校にレクリエーションで作った作品を展示していただいたり、老人会のイベントに参加し、地域の人々と触れ合いを持つ機会を作るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員、利用者の家族に参加してもらい、ホームの活動状況等を報告したり、助言を頂いている。地域への積極的な参加を促されできた、近隣小学校との交流も続いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港北区役所が担当である、生活保護の方が入居している事もあり、日頃より連絡を取り合っている。現在も時折、入居希望者の紹介があり。また、市が実施する講習会等にも参加するように努め、関係を築けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施したり、マニュアルを作成し、拘束の悪影響や知識について理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。また、管理者は職員や家族と、ケアについて話し合い日常で、虐待がないか状況把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を用意している。また、今後、後見人がつく予定の方がいるので、家族や後見人と連絡をとり合い、後見人から依頼された提出書類も用意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居の際に、文面や口頭にて説明し、疑問点等についても納得して頂けるよう丁寧に説明している。解約に関しても、事前に家族と話し合いをして納得を頂いたうえでやっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の連絡先については契約の際に説明し、家族にお渡ししている、重要事項説明書にも記載している。また、家族が面会時にいつでも見えるよう、ホーム内にも掲示している。運営推進会議にて頂いた意見等も参考に、検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を行い個々の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常で職員が気付いた事などは、連絡ノートに記入してもらい、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員とのコミュニケーションをしっかりと、一人一人の状況把握に努めている。また、各自が向上心を持てるよう、資格取得等も促している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修等に関して、管理者や新入社員、契約社員等、個々に合わせた研修に参加できるように、促し機会を設けている。外部の研修に関しても、本人がやる気を出して参加するよう、働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者と希望者で、ブロック連絡会の研修に参加し、他の施設の方との交流の機会を持てるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談、契約時において本人の意見や、困っている事、不安に感じている事をよくききとり、その後のケアにいかして安心できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前後において、家族が困っている事や、希望する事に耳を傾けアドバイス等し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族や本人の訴えや希望を聞き、ケアプランにも練り込み、日々ケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者や所長は、職員が管理する立場ではなく、共に同じ生活をする者だという事を認識してもらえよう、勉強会にて説明したり、日頃の会話の中でも話している為、その関係ができています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の本人の健康状態や状況を細かく伝え、通院時等にも家族の力を借りたりして、ともに本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの家族や馴染みの友人が来た時等は、ゆっくりしていけるように環境作りに努めている。また、中には馴染みの床屋や、歯医者に通っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格の把握等に努め、孤立した方がでないように、全員でできるようなレクを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した本人、家族についてはこちらから連絡はあまりないが、連絡をした際や、連絡があった際には、現在の状況や、御様子をお伺いし、力に慣れるように相談に乗ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関係を密にし、会話から本人の希望や意向をくみ取れるよう、勤めている。また、困難な方の場合でも本人の立場にたって考え、カンファレンス等で支援方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みについては、本人や家族からも情報を頂けるように、コミュニケーションを密にとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は、ケース記録に記入し全職員が読むようにしている。また、日に二回申し送りを実施し、特変等を引き継いでいる。また、一人一人の現状についてはカンファレンスにて、話し合っって現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、本人の現状に合ったケアについて話し合い、職員それぞれの良い意見等を介護計画に反映させている。また、家族が来た際には、本人の現状を伝え、家族の希望や意見も参考にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは、ケース記録に記入し、職員はそれを読んだり、申し送りにて情報を共有している。計画作成者は、記録から情報を抜き出し、カンファレンスでも話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物内のデイサービスで実施している音楽療法や書道教室になるべく全員が参加できるよう、促している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科、書道教室を利用し、安心して楽しく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を導入しており、入居時等に聞き希望者のみ往診に切り替えている。本人や、家族の意向により、馴染みの医療機関をそのまま利用している方もいる。その場合は、家族に健康面等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師が来るので、一人一人の状態を細かく報告し、医療面等、わからない点に関しては助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、入院先の病院に連絡をこまめにとり、現状の把握に努めている。また、早期に退院できるように、家族やかかりつけ医ともこまめに連絡をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、入居時に文面、口頭にて十分に説明してある。また、終末期に近い段階になった際は早目に家族と話し合い、考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、勉強会等で訓練している。また、報告書等を必ず全員に読んでもらう事により、職員全員が発生時の対応について頭に入っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回訓練を実施している。夜間を想定しての訓練について、消防署より指摘された点があるので、次回は改善し実施する。地域住民も訓練に参加してもらえよう声はかけたが参加して頂けず。今後も依頼する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が周りに知られたくない事、排泄に関する事や病気に関する事等、周りには知られないように小声で声をかけたり、他者がいない所で声をかけるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な面で、職員が決めるのではなく、本人に聞いたり選択肢を用意し本人に決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や入浴等は、できるかぎり本人のペースを尊重し、本人の希望に沿った生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、訪問理美容に来てもらい髪型を本人の希望に合わせてカットしてもらっている。また、時折化粧等のおしゃれを支援して喜んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際、できる方には盛り付けをお願いしている。食事に関しては、日によって調理方法をかえたり、時折出前をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスに関しては、業者の栄養士が作った献立表に従っている。水分に関しては水分量を個々に付け、少ない方にはこまめに促したりして確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて行える方は促し、介助が必要な方は、必要な部分だけ介助している。また、週に一度訪問歯科が来ており、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を個々に付け、排泄のパターン把握に努めている。また、排泄のパターンを把握し、定時誘導により失禁の回数をできるだけ減らし、オムツをなるべく使わないでもいいようにできないか、検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をよくとってもらい、少しでも運動して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に概ね何回くらい入って頂きたい回数があり、促しはするが強制はせず、また本人が望むならそれ以上入っていただいている。入浴時は個々に合った支援方法で支援し、安心して入浴できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、温かい飲み物を提供し、不安な事、困っている事は傾聴し安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬のチェック表に、どの薬を飲んでいるか記載し、いつでも目に入るようにしている。服薬時は、飲み込むまで側から離れない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、食事の盛り付け等個々ができる事を把握し、無理のない程度に依頼している。生活歴や趣味から、その人にあったレクを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外気浴や外出を支援している。また、ご家族にも協力してもらい、外出する事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には少しではあるが、お金を自己管理していただいている。買い物等に行く際は一緒に行き、お菓子等本人に選んでもらう等、買い物の楽しさを味わってもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡をとりたいと希望がある時、家族から連絡があった時は、本人が電話を使えるように支援したり、手紙や年賀状等を書かれた際は、こちらで出すように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節を感じていただけるよう、季節のお花を飾ったりしている。また、大きな音をたてないように気をつけ、照明も強過ぎないように調整している。また室温の調整も、動く職員ではなく、あまり動かない方に合わせて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外では席等の指定は特になく、ソファやテーブルの席を自由に使っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見慣れない場所に泊るといふ、本人の不安もあるので、入居時には家で使い慣れた、見慣れたものを持ってきて頂けるように依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂場には手すりがついており、安心して歩行できるようになっている。また、各トイレ、お風呂場には呼び出しボタンがついており、利用者が必要な時に呼べるようになっている。		

目標達成計画

事業所名

ミモザ港北新羽

作成日

平成23年9月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年に6回の運営推進会議を開催しているが、町内会関係者の参加が少なく、更なる地域との密着が必要。	町内会長や民生委員の参加頻度が増える。	会議の2週間前には案内を郵送しているが、直前に再度参加について確認をとる。地域行事を通して、地域との関係を密にする。	1年
2	33	ターミナルケアについて、現在行っていないが家族の実施希望も聞かれているのでターミナルケアをできる体制を少しずつ整える。	まずは職員のターミナルケアの意識付けと、育成をする。	ターミナルケアに関するマニュアルの用意と、勉強会を通して職員を育てる。	1年
3	35	年二回の防災訓練を実施しており、夜間を想定しての避難訓練を実施しているが、一度も地域の方には参加して頂けていない。	訓練に参加して頂き、実際の災害時にも参加して頂けるようお願いし、また避難の流れについて知ってもらう。	現在お願いしている方以外にも声をかける。近所の方と日頃から挨拶や、会話をして関係を密にする。	1年
4					
5					